

令和 3 年 第 2 回定例会 一般質問

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	赤 井 睦 美	1. コロナによる貧困対策を！	ワクチン接種が始まり、コロナ感染に対する不安も少し薄まってきた感じもありますが、長期にわたるコロナ対応のため、飲食業者はもちろん、そこで働いている従業員の方々や訪問しなければならない仕事関係の方から生活が大変という声が上がっています。 社会福祉協議会には緊急小口資金や総合支援資金への問い合わせの電話が 50 件近くあるそうです。事業所や店舗に対する支援金がありますが、なかなか従業員、特に非正規雇用の方々までには届いておりません。 緊急小口資金も生活費が入ってこない方にとってはとても助かりますが、いずれは返さなければならない借金です。コロナ感染が少し収まったとしても、すぐに以前の収入に戻る訳ではないので、借金の返済に苦慮する方も出てくるのではないかと、担当の方も心を痛めていました。 コロナによる弊害はこれから色々な形で現れ、長引くと思いますが、町としてはそのような現状と今後の課題、そしてその対応をどのようにお考えかお伺いします。	町 長
		2. 2025 年は目前！	八雲町では、給食費や医療費の無償化、保育料の軽減など子育て支援が充実し、子育てのしやすい町になっていると思います。このことが少しでも出生率の低下に歯止めをかけることにつながることを心から願っています。 しかし、2025 年には人口の 4 ～ 5 人に 1 人が 75 歳以上となり、3 人に 1 人が 65 歳以上となる超高齢化社会に突入します。 そのため政府は、社会保障や医療、介護などに関する対策が必要不可欠と考え、2011 年から「地域包括ケアシステム」を提唱してきました。各個人が住み慣れた地域で人生を全うする仕組みづくりを推し進める政策で、国の社会保障制度に頼りすぎず、老後の生活を自助努力と地域の枠組み、民間活用でどうにか切り抜けられる社会を目指そうというものです。 もちろん、2025 年までに社会保障制度が破綻するということではありませんが、超高齢化社会に突入していく日本では、今後公的支援サービスの質や保障が下げられる可能性は大きいです。既に 2020 年時点でも年金の費用負担は増え続けている一方、年金額は減少するばかりです。また、少子化により生産人口が減ることで、医療・介護に携わる人口も減り、今後は入院したくても受け入れてもらえない、介護も受けられないと	町 長

			いう医療難民や介護難民、老老介護、認認介護等が予想されます。 町民皆さまが、住み慣れた八雲町で人生を全うするために、こうした医療問題、介護問題、人材確保の問題に対し、現状と今後の対策をお伺いします。 そして、この問題こそ町民と協働で取り組まなければならないものですから、そのための仕組み作りについてもお伺いします。	
--	--	--	--	--

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
2	横 田 喜 世 志	1. 重要土地法案の八雲町への影響は？	本年3月26日「重要施設周辺及び国境離島等における土地等の利用状況の調査及び利用の規制等に関する法律案」を閣議決定し、今国会で審議されている。 八雲は特別注視区域百数十カ所の防空機能重要施設候補になっている。重要施設のおおむね1kmの範囲内を指定することになると、八雲市街のほとんどの区域が指定されることになる。 土地利用の規制、事前届け出の義務付け、罰則もある内容となっている。 このようなことから、今後の八雲町のまちづくりに影響するのではないかと伺う。	町 長

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
3	佐 藤 智 子	1. 八雲版ネウボラ、一緒に考えていきませんか。 2. 角田弟彦のこと 3. 新型コロナワクチン接種と医療の逼迫状況は？	ネウボラとは、フィンランド語で“相談の場”を意味する。アドバイス、助言という意味もある。妊娠期から就学前までの子どもの健やかな成長・発達の支援と共に、母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康サポートを目的とする行政施策である。 フィンランドでは、子どもが産まれる前から学校に上がる前まで同じ担当者が支援をする専任制をとっている。子育ての孤立化を防ぎ、子どもの発達の問題の早期発見に効果を発揮している。 八雲町の産前産後の育児教室や訪問支援は充実していると思うが、さらに子育てしやすい町として、八雲版ネウボラを考えてはどうか。 八雲町史には八雲町の開拓の祖の歴史が詳しく語られ、登場人物も多い。その中に歌人、角田弟彦（つのだ おとひこ）がいる。かつては「弟彦もなか」というお菓子になって、町民に親しまれていたが、現在は、あまり注目されることもないように思う。 八雲町史に触れられている部分を読むと、八雲町という名前の決定経過の記録にも携わっていたようである。 八雲町開拓にも尽力され、文化人でもある弟彦にもっと光が当てられても良いのではないだろうか。 そこで、次の3点について伺う。 ①小学校の副読本『わたしたちの町八雲』の中では、どのように扱われているか。 ②八雲消防団西分団格納所横に歌碑があるが、ほとんど目立たない存在になっていないか。通りを歩いても目につくような工夫があってしかるべきではないか。 ③これまでもあったかもしれないが、住民向けに角田弟彦の功績や歌などを学ぶ機会を設けてはどうか。 ①4月下旬に医療従事者先行でワクチン接種が始まり、現在は75歳以上の第1回目の接種が進んでいると思うが、医療従事者の接種はすべて終わることができたのか。高齢者施設の職員、入所者の接種の状況はどうか。 また、75歳以上の2回目接種の終了時期と65歳から74歳までの接種の開始と終了期間を伺う。加えてそれ以下の年齢の接種は今後、どうなるのか。 これまでの電話やネットでの予約には、どんな問題が発生したか。スマートフォン	町 長 教 育 長 町 長

			ンやパソコンを使えない高齢者にはどう対処したのか。在宅で会場に接種に行けない方には、どのように対処するのか。 ②コロナ病床の稼働率は現在、何%か。医療体制は余裕があるのか、あるいはひっ迫しているのか状況を伺う。	
--	--	--	---	--

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
4	三 澤 公 雄	1. 新型コロナウイルスワクチン接種の課題について	65 才以上の町民へのワクチン接種の予約は終了した。 ここまで、少なからず町民の間に混乱があったようだし、想定外の出来事もあったと思われる。 今現在どのように総括しているか。 さらに、この後、基礎疾患のある方々、そして 65 才未満の方々の予約、接種が始まるのだが、同じ方法で進めるのだろうか。 一方、ワクチン接種の事務を担当する職員の“働き方”が過重になっていないのか。 また、このままでいくと今年はコロナ禍の状態での選挙となりそうだ。 投票率の維持・向上の為には一層の工夫が必要と考えるが、今現在、どのように準備されているのか。	町 長 選管委員長
		2. 「土地改良制度の見直し」の見直しを促す為に…	基礎自治体として産業振興の最前線にいるからこそ、国へ声を上げなければ解決に至らないのではないかと。 全農地を有効に活用するためには、基盤整備の充実が欠かせない。しかし、現状では所有者、担い手双方の負担が大きく、前に進んでいない。平成 29 年に「土地改良制度の見直し」がされたが、一向に目標に進んでいるようには見えない。 “青年舎”という画期的な取組を行っている八雲町だからこそ、国に対して声を上げ、新しい流れを作るきっかけとなるべきと考える。 このような現状と、今後の農地の集積に関して町長の見解を伺いたい。	町 長
		3. 熊石地区を再エネ事業の促進区域に定めてはどうか。	熊石地区の人口減少に歯止めがかからない。いわゆる自然減がどんどん進んでいるわけだが、「自然増」「社会増」を目指したくても、フラットな競争であれば八雲地区への居住を選ぶのは仕方がない現状と思われる。 そうであるならば、熊石地区の魅力アップを企てなければならない。 そこで、5 月 26 日に可決した「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律案」にのっとり、熊石地区を促進区域に選定し、八雲町における再エネ最前線として、各種の再エネ事業化を進め、雇用の創出を図ってはどうか。	町 長

